

# 平成27年度事業計画

平成27年 2月

公益財団法人 阿蘇地域振興デザインセンター

## 平成27年度事業の基本的考え方

### <基 軸>

#### 【公益事業1】豊かな自然による世界ブランドの確立

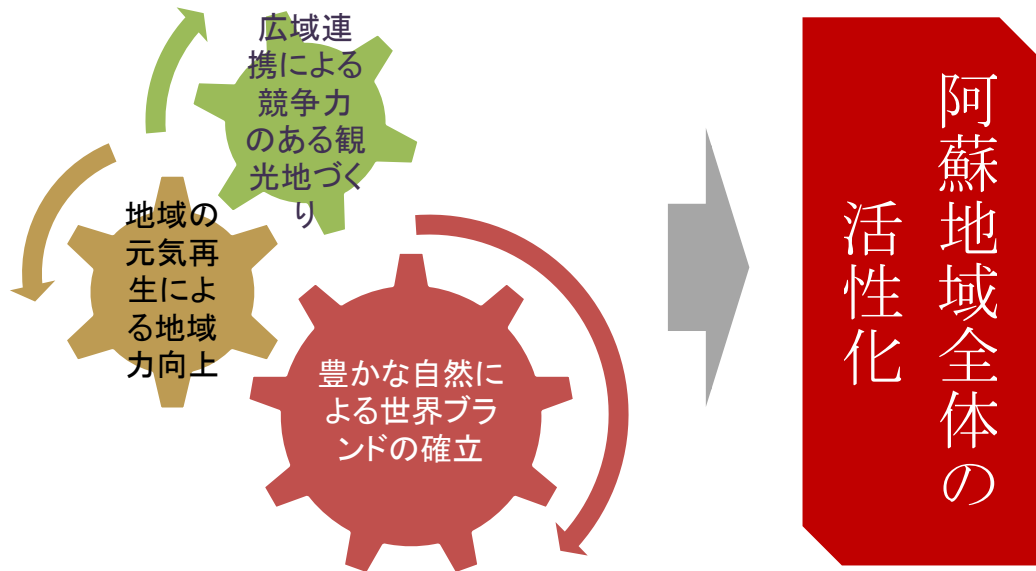
→認定済み世界的価値“世界ジオパーク”他の具体メリットの可視化と発信

#### 【公益事業2】地域の元気再生による地域力向上

→内発的な地域づくり事業活動案の事前把握により情報および機会および資金の支援

#### 【公益事業3】広域連携による競争力のある観光地づくり

→旅行者の利便性に配慮する情報ツールのシームレス化および深化と頒布機会の拡大



### <継承軸>

- ・「千年の草原を活用した阿蘇地域活性化の総合戦略」の遂行;利活用からの草原再生PR
- ・あか牛はじめ農業の活性化とブランド確立;阿蘇「食」ブランドの知財化、商材化を進める
- ・産業見本市等の出展等を通じたブランド発信;観光地として、農産地として、移住地として
- ・複数大学との連携;阿蘇における研究領域と成果の誘導および将来人材の獲得を狙い
- ・観光庁新観光圏関連事業のまとめ;成果定着と圏域内各所からの新事業案誘発を目指し
- ・人材の育成、啓発;DC組織内外の人材発掘と調査研究活動や社会実験などを通じ
- ・阿蘇の価値資源の垂直統合;農業、草原、ジオパークへの支援、世界文化遺産へ向けて

### 【概要補記】

長らく阿蘇DCの四本柱であった「地域振興」「観光振興」「環境・景観保全」「情報発信」を定款に沿って括り直します。公益事業の1として「豊かな自然による世界ブランドの確立」、2と

して「地域の元気再生による地域力向上」、3として「広域連携による競争力のある観光地づくり」が設けられていますが、この公益事業の本来的な目的、趣旨を阿蘇地域へ投影し浮かび上がる今日的な課題に対処する施策を今一度講ずるものとします。

わが国が積極的な施策とする「観光+農業」の構図をさらに阿蘇は追求することが有利です。認定済みの二つの世界タイトル“世界農業遺産”と“世界ジオパーク”を地元住民の目に見えるメリット構造として表すことが肝心です。そして二枚看板の成果をしっかりと対外発信することが新規旅行客の獲得につながり、また旅行客を受け入れる地元の方々のやる気や喜びを生み出します。

これらの施策は観光事業者にとどまらず農業等の一次産業に従事する方々にも応分の利得として還流する仕組みを伴うものとします。基本財として重要性が認められる草原の再生と新しいツーリズム形態に合う創造的価値誘発を図るものとします。経済効果にせよ精神的満足感にせよ、世界タイトルは地域振興のための格好の手段です。

世界文化遺産への礎となる「環境デザイン策定」は事業として終了しましたが、その成果を「観光+農業」において具体化させます。地域の景観をいかに守り、役立てていくかは、地元農畜産品を使う料理のブラッシュアップや草原や農山村風景の中を歩く旅等によって、その効用を確認することができます。あか牛の消費拡大、草原再生PRへも通ずるものとなり、可視化される地域振興の形となります。こうした取り組みが世界ブランドを実態化することとなります。

昨年の初開催で17万人を集めたツーリズムEXPOジャパンでは、2015年、視認性を高め、特に海外市場に訴求力を発揮すべくオール九州として大きな出展空間を確保し、その中で構成地域個々が特徴を発揮するプレゼンテーションを目指すこととし、阿蘇がその中心的存在となるよう関係先へ働きかけます。阿蘇の方々が出展の企画運営に直接携わり、貴重な情報や人脈を地域へ持ち帰る構図は変更しません。併催される観光事業者向けのマーケティングセミナーにも講座小間を確保し、阿蘇の観光資源、観光システムについてB to Bの機会創出を図ります。

平成 27 年度公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンター  
事業計画書

○ 中期計画に基づく事業計画の概要

財団の中期計画に基づく平成 27 年度の事業計画は次のとおりとする。

事業分類	事業テーマ	事業
公 1	豊かな自然による世界ブランドの確立	ア, 草原再生 PR 事業
		イ, 野焼き支援事業
		ウ, あか牛振興事業
		エ, 阿蘇ジオパーク活動の推進
公 2	地域の元気再生による地域力向上	ア, 地域元気再生支援事業
		イ, 情報発信と人材育成
公 3	広域連携による競争力のある観光地づくり	ア, 阿蘇カルデラツーリズムの推進
		イ, 観光圏整備法を活用した事業

○ 事業の内容

**【公 1 豊かな自然による世界ブランドの確立】**

事業名	ア, 草原再生 PR 事業
事業内容	草原景観を維持していくためには、その特性や価値について理解浸透を必要とすることから、地域内外に向けた普及啓発のためのイベント開催や、広報宣伝等による情報発信により、草原再生への機運を醸成する。

事業名	イ, 野焼き支援事業
事業内容	草原景観を維持していくため、野焼き作業へのモチベーションアップと人員の拡大を目指す取組み。野焼きボランティアへの支援に加え、新たな施策の研究。また、草原を維持する作業を通じたツーリズム企画の検討及び確立。

事業名	ウ, あか牛振興事業
事業内容	あか牛の放牧が草原維持の基本であることから、放牧牛の増頭への対策として、あか牛の食肉としての消費拡大や阿蘇の農畜産品の消費拡大に向けた PR を実施する。また、「食」と「農」のツーリズム戦略における可能性の調査検討。

事業名	エ, 阿蘇ジオパーク活動の推進
事業内容	平成 26 年 9 月に世界ジオパーク認定を受け、阿蘇ジオパーク振興計画の趣意に沿いつつ、ジオサイト案内板の整備やジオツアーガイドの養成、小中学校及び高等学校へのジオ教育普及など、阿蘇火山博物館や南阿蘇ビジターセンター、環境省、熊本県など様々な団体と連携を強めながら事業を推進する。

## 【公2 地域の元気再生による地域力向上】

事業名	ア, 地域元気再生支援事業
事業内容	地域資源を活かした振興策の取組みを進めるため、伝統行事再生に向けた取組みや地域イベントの実施など、魅力ある地域づくりと地域の活性化を図ることを目的とした取組みや事業に対して助成を行う。

事業名	イ, 情報発信と人材育成 ① 情報誌の作成
事業内容	阿蘇各地の地域の情報や活動、観光に関する情報などを阿蘇地域として一体的に各種媒体やメディアにより情報発信し、地域イメージの向上と地域経済の活性化を図る。 ① 情報誌「ASO大陸 asolulu」の作成：年4回、各30,000部発行 ② 機関紙「WAVE」の作成：年1回30,000部発行 ③ 阿蘇暦（阿蘇イベント情報カレンダー）の作成：年1回50,000部発行 ④ 阿蘇大図鑑（広域マップ）の印刷：年1回2,000枚発行

事業名	イ, 情報発信と人材育成 ② ホームページの管理運営
事業内容	各ホームページの管理、運営を行い、最新の地域情報を提供する。 ① 財団ホームページの管理・運営 ② 阿蘇データベース「阿蘇ナビ」システムの管理・運営 ③ 阿蘇デジタルサイネージの管理・運営

事業名	イ, 情報発信と人材育成 ③ ラジオ番組の放送
事業内容	株式会社エフエム熊本が運営する毎週土曜日、昼12:30~13:00放送のラジオ番組「ゆっくりのんびりASO大陸」を活用し、阿蘇地域の人や自然、観光地、イベントなど広く紹介し、阿蘇の魅力をリアルタイムで情報発信する。

【公3 広域連携による競争力のある観光地づくり】

事業名	ア、阿蘇カルデラツーリズムの推進
事業内容	<p>阿蘇カルデラツーリズムは、①エコツーリズム②グリーンツーリズム③タウンツーリズムの総称。自然や農村、商店街をベースに地域づくりワークショップを実施し、新規コンテンツの創出など、滞在機能強化を図ることを目的としている。</p> <p>エコツーリズムの取組みは、阿蘇ジオパーク活動との連携を図れる部分は基盤づくりにおいて合理性を鑑み共同歩調を検討する。</p> <p>グリーンツーリズムの取組みは、平成24年度に設立した阿蘇グリーンツーリズム協議会による「阿蘇スローフードフェスタ」開催と世界農業遺産認定を踏まえた連携を研究する。</p> <p>タウンツーリズムの取組みは、圏域内の街区を連携させ、地域力アップとなる仕組みを研究する。</p> <p>また、地域づくり型観光の推進において、地域全体の魅力の向上を図るためには、様々な関係諸団体や関連施設との連携が重要であり、総合的なネットワークの構築を進める。併せて、公共交通網の整備研究や阿蘇くじゅう高千穂の各地域コンシェルジュ機能など、受入れ態勢の充実を図る。</p>
事業内容	<p>〔主な事業〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 阿蘇エコツーリズム協会の運営・支援</li> <li>② 阿蘇ジオパーク推進協議会との連携</li> <li>③ 阿蘇グリーンツーリズム協議会の運営・支援</li> <li>④ 阿蘇タウンツーリズムに関する調査・研究</li> <li>⑤ 阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議の運営・支援</li> <li>⑥ 地域づくりワークショップの実施（研修会、説明会含む）</li> <li>⑦ 電動アシスト付きレンタサイクルの運用など</li> </ol> <p>〔関係する団体や施設〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 観光協会、商工会、地域づくり団体、観光関連施設などとの連携</li> <li>② 火の国未来づくりネットワーク（県内300団体で構成）活動</li> <li>③ 阿蘇・熊本・天草観光推進協議会への参加</li> <li>④ 阿蘇くまもと空港国際線振興協議会への参加</li> <li>⑤ 社団法人熊本県観光連盟への参加</li> <li>⑥ F C N e t九州・山口への参加（フィルムコミッション活動）</li> <li>⑦ 熊本経済同友会「チーム阿蘇」、東海大学などとの連携</li> </ol>

### 公3【広域連携による競争力のある観光地づくり】

事業名	イ、観光圏整備法を活用した事業
事業内容	<p>本事業は、国内外から選好される国際競争力の高い魅力ある観光地域を形成するため、地域のブランドの確立を通じた「日本の顔」となる観光地づくりについて、観光庁による支援制度である。</p> <p>具体的には、地域が策定するブランド戦略に基づき、来訪者と地域の交流を支える応接環境の整備（ワンストップ受入環境整備、ブランドイメージを支える滞在プログラム造成等）、地域らしさを演出する地域独自の空間の形成（滞在プログラム等と連動した修景、移動の利便性向上の取組み等）、取組の恒常的実施改善を通じたブランド管理（品質管理・保証システムの構築、満足度調査、戦略的プロモーション等）について、地域のマネジメントを中心的に担う民間団体等に支援される事業である（補助率40%以内）。</p> <p>阿蘇くじゅう観光圏（熊本県阿蘇市、阿蘇郡南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、西原村、上益城郡山都町、大分県竹田市、宮崎県西臼杵郡高千穂町）では、当財団が観光地づくりプラットフォームを担い、地域協議会である阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議（議長：阿蘇市観光協会々長）と連携・調整を図り、阿蘇くまもと空港を拠点としたゲートウェイ戦略とし、九州を代表する自然、温泉、歴史・文化が融合した滞在交流型の観光地づくりを目指す。</p>
	<p>①滞在プログラム魅力向上・改善等事業</p> <p>A) 阿蘇ジオパークガイド育成</p> <p>B) 阿蘇ジオコースマップ作成</p> <p>C) 阿蘇ジオツアーモニター調査</p> <p>D) 阿蘇くじゅう観光圏ガイド連携システム構築</p> <p>E) 阿蘇くじゅう観光圏満喫パンフレット作成</p> <p>F) 千年の草原を活用したプログラム開発</p> <p>G) 奥豊後オルレ受入体制環境整備</p> <p>H) 阿蘇草原トレイル補修安全環境整備</p> <p>I) 阿蘇溶岩トンネル活用プログラム開発</p> <p>J) 秋元集落どっぴり型プログラム確立</p> <p>K) 高千穂峡周辺トイレ環境改善</p> <p>L) 鍋ヶ滝公園ツーリズム環境整備</p> <p>M) 観光地案内標識の英語化</p>

②主たる滞在促進地区における事業

- A) 阿蘇くじゅう観光窓口機能の整備
- B) ウェルカム阿蘇くじゅう&滞在機能強化大作戦
- C) 外国人旅行者にやさしい街づくり
- D) 阿蘇カルデラツアー催行の充実
- E) 循環バス等カラーリング及び多言語化推進

③ブランド管理事業

- A) 阿蘇くじゅう観光圏モニタリング調査
- B) 阿蘇くじゅう観光圏ツーリストマップ作成
- C) 阿蘇くじゅう観光圏プロモーション活動
- D) 阿蘇くじゅう観光圏セミナー開催

④その他事業

- A) 阿蘇くじゅう観光圏コンシェルジュ育成研修
- B) 阿蘇温泉郷イメージ創出
- C) 阿蘇スローフードフェスタ開催